

みつき便り

113号
2月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年2月1日

<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

ブルーギル

池の特定外来生物に指定されている魚、ブルーギルは大きくても二五cm位で、ブラックバスのように大きくはなりません。池で良く見かけるのは五cm位の魚で、薄い緑に黒色横縞があります。食性は、雑食性で餌の生物が少なくないところでは水草も餌にします。

元々日本の在来種ではなく、北アメリカ産の魚を五十年ほど前に、当時の皇太子明仁親王が外遊の際に日本に持ち帰り、水産研究所で食用の研究用として



飼育されました。その後、伊東市の一碧湖に放流したものが、現在は、ほぼ全国の池や沼などに広がり繁殖生息しているのが現状です。

地域によっては、ブルーギルの繁殖に伴い在来の水生生物や在来種の魚のモツゴなどが、これらによって激減している例も少なくありません。漁師さんにとっては死活問題に成りかねません。

見次公園の池でも、繁殖に伴い在来の水生生物や魚に影響があるのか確かなことはわかりません。ミシシッピアカミミガメ同様、何らかの対策が必要かと思えます。

(圭)



ヒヤシンス

秋が深まるとヒヤシンスが園芸店の店先を飾ります。手頃な価格と手入れのしやすさで、親しまれている早春の花の一つです。寒さが緩んでくると、球根から茎が伸び、小さな花をいっぱい咲かせて、辺り一面に爽やかな香りを広げてくれます。ギリシャ神話に出てくるアポロンの愛の象徴の花とも言われ、日本には、江戸時代にオランダから伝わり漢字では『風信子』と書きます。

見次公園の西側にある腐葉土箱脇の日当りの良い所に、以前に植えたヒヤシンスの球根が、雪の中から芽を出しました。まだまだ小さな葉っぱですが、固い蕾を冷たい風からしっかりと守っているようです。蕾たちは、まるで地べたから目をキョロキョロさせ、春の訪れる頃あいを見計らっているかのようで、思わず口元がほころびます。

二月は如月ともいい、寒さで着物を更に重ね着をするという、衣更着が由来になっています。皆様も温かくしてお過ごしください。

(静)